



『訂正可能性の哲学』

東浩紀 ゲンロン

本 館	請求記号：K/100/A99	資料ID：111464277
Knowledge Base	請求記号： /100/A99	資料ID：111504528

ネットワーク情報学部教授 佐藤 慶一

哲学をベースとした文化や社会の批評で国内外に知られる現代日本の代表的な思想家の1人である東浩紀さんは、2011年に刊行した『一般意志2.0』で、情報技術を活用した民主主義のあり方への期待を書いていました。東日本大震災、新型コロナウイルス感染症などを経た2023年、『訂正可能性の哲学』が刊行されました。1990年代から2000年代のネット社会論のボトムアップ的な美しいイメージは、2010年代が下がるにつれ、ネットによる社会分断、フェイクニュース、ポピュリズム、検閲や監視など政治的コミュニケーションを難しくするものへと変化しつつあります。東さんは、成田悠輔さんの『22世紀の民主主義』などに見られるようなビックデータや人工知能を駆使して機械が政策決定していく未来像に強い懸念を示しています。デジタル・AIの時代に、主体的に物事を考えて、終わることのない対話を充満させることの意味を、あらためて考えるきっかけとなる一冊だと思います。